

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成23年3月31日(2011.3.31)

【公表番号】特表2003-506378(P2003-506378A)

【公表日】平成15年2月18日(2003.2.18)

【出願番号】特願2001-514342(P2001-514342)

【国際特許分類】

C 07 D 491/22 (2006.01)
 A 61 K 9/127 (2006.01)
 A 61 K 31/4745 (2006.01)
 A 61 P 35/00 (2006.01)
 A 61 P 43/00 (2006.01)

【F I】

C 07 D 491/22
 A 61 K 9/127
 A 61 K 31/4745
 A 61 P 35/00
 A 61 P 43/00 1 1 1

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年2月5日(2011.2.5)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

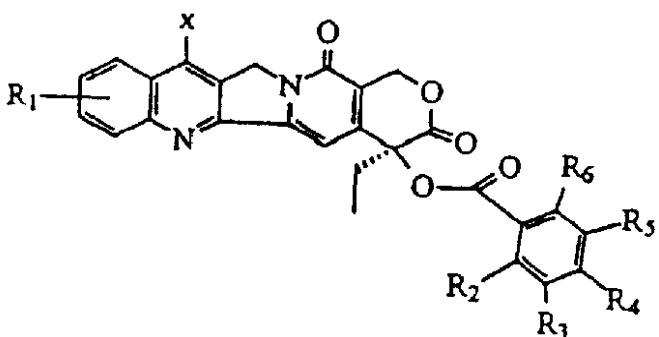
【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】次式：

【化1】



(式中、R¹はH、NO₂、NH₂、N₃、ハロゲン、カルボキシル、C₁₋₁₆アルキル基、C₁₋₁₆アルケニル基、C₃₋₈シクロアルキル基、C₁₋₈アルコキシル基、アロキシル基、CN、SO₃H、C₁₋₈ハロゲン化アルキル基、(CH₂)_nN(R⁷)₂、ヒドロキシル、SH、SR⁸、カルボニル基、Si(R¹⁰)₃である。；ここで、R¹基はそれぞれ、9、10、11または12位に位置し；R⁷はHまたはC₁₋₈アルキル基であり；nは1~8の整数であり；R⁸はC₁₋₈アルキル基またはフェニル基であり；R¹⁰はC₁₋₄アルキル基であり；XはH、C₁₋₈アルキル基、C₁₋₈アルケニル基、C₁₋₈アルコキシル基、アロキシル基、Si(R¹¹)₃基、またはCH₂NZYである。；かつ、式中、R²、R³、R⁴、R⁵、およびR⁶は独立して、H、C₁₋₁₂アルキル基、C₁₋₁₂アルケニル基、COOH、SO₃H、CN、CF₃、

$\text{C}_\text{C}_1\text{L}_3$ 、 $\text{C}_\text{H}_2\text{F}$ 、 $\text{C}_\text{H}_2\text{C}_1$ 、 $\text{C}_\text{H}\text{F}_2$ 、 $\text{C}_\text{H}\text{C}_1\text{L}_2$ 、 O_H 、 $\text{O}_\text{R}^{1\text{--}2}$ 、 N_3 、 N_O_2 、 $\text{N}(\text{R}^{1\text{--}3})_2$ 、カルボニル基、ハロゲンである。ここで $\text{R}^{1\text{--}1}$ は $\text{C}_{1\text{--}4}$ アルキル基であり； Z および Y は独立して、 H 、 $\text{C}_{1\text{--}4}$ アルキル基、または $\text{C}_{1\text{--}4}$ ハロゲン化アルキル基であり； $\text{R}^{1\text{--}2}$ は $\text{C}_{1\text{--}8}$ アルキル基、 $\text{C}_{1\text{--}8}$ アルケニル基、または芳香族基であり；かつ、ここで、 $\text{R}^{1\text{--}3}$ は H または $\text{C}_{1\text{--}4}$ アルキル基である。)を有する芳香族カンプトセシンエステルであって、ここで、 R^2 、 R^3 、 R^4 、 R^5 、 R^6 のうち少なくとも一つは H でないことを特徴とする芳香族カンプトセシンエステル。

【請求項 2】 前記 R^1 は水素であり、かつ、 X は水素である、請求項 1 記載の芳香族カプトセシンエステル。

【請求項 3】 前記 R^1 は N_O_2 であり、かつ、 X は H である、請求項 1 記載の芳香族カプトセシンエステル。

【請求項 4】 前記 R^1 は N_H_2 であり、 X は H である、請求項 1 記載の芳香族カプトセシンエステル。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

【発明の実施の態様】

本発明は新規なカンプトセシン誘導体に関する。これらのカンプトセシン誘導体は、好ましくは水不溶性芳香族カンプトセシンエステルである。この芳香族カンプトセシンエステルは、好ましくは次式(I)を有する。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0058

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0058】

エステルの活性はその側部芳香族環の置換基に関連していることである。その側部芳香族環に二トロ基を有するエステルは、他のものよりもより活性である。 $\text{C}_\text{Z}1\text{7}\text{6}$ および $\text{C}_\text{Z}2\text{2}\text{2}$ などのその側部芳香族環にいかなる置換基も有しないエステルは、いかなる活性も示さない。すなわち、本発明のエステル間の活性相違は、その側部芳香族環の異なった置換基による。